

# 銘傳大學 99 學年度研究所碩士班招生考試

## 應用日語學系碩士班

### 第二節

#### 日文翻譯試題

(第 / 頁共 / 頁) (限用答案本作答)

可使用計算機  不可使用計算機

#### 問題

一、次の文を日本語に訳しなさい。(40点:各5点×8問)

1. 所謂腦死是指腦的活動停止, 靠人工呼吸器維持僅有心跳的狀態。(「～というのは」を使いなさい)
2. 舉辦茶會的房間稱為茶室。是一個能讓主人和客人一邊品茶, 一邊和樂融融談天的場所。(「～ながら」を使いなさい)
3. 伴隨著通信技術的進步, 大眾傳播系統有了驚人的發展。(「～に伴って」を使いなさい)
4. 因為想去旅行, 所以平常盡可能不要花錢把錢存下來。(「～ふだん」を使いなさい)
5. 到出席這次集會前, 我自己本身也不是都沒有關心這類問題。(「～というわけではない」を使いなさい)
6. 隔天開始, 我瞞著父母和弟弟去打工。(「～にも～にも」を使いなさい)
7. 那時候最受歡迎的是介紹世界各地的自然風景、人文、以及生活習慣的節目。(「～の一つに」を使いなさい)
8. 日本的上班族在公司工作到很晚, 和家人一起相處的時間很少。(「～まで」を使いなさい)

二、次のテーマと文章を中国語に訳しなさい。(60点)

#### 經濟大国とうさぎ小屋

日本の住宅は、うさぎ小屋だといわれている。經濟大国とうさぎ小屋との結びつきは、ぴったりとこないのだが、それは現実である。最低居住水準に満たない世帯の七割が賃貸住宅に住んでいるが、公団住宅、県営・市営住宅などの公的住宅はいうまでもなく、それにさえ住むことができずに民間アパートでうさぎ小屋生活を強いられている人は多いのである。そのうさぎ小屋でさえ、サラリーマンの月給に占める月々の家賃の割合は高く、家賃のために働いていると嘆く人も少なくない。

一生真面目に働いても、ふつうのサラリーマンが人間らしい住宅に住むことができないのが經濟大国日本の姿である。地価や住宅価格の上昇で住宅を手に入れることは年々難しくなっているし、とくに大都市圏では住宅取得はほとんど絶望的だ。住宅やマンション販売の新聞広告には何億円という数字がおどっているが、つましく生きる庶民には、見知らぬ宇宙のできごとのようで現実感に乏しい。

「ムジナでも家は自分でつくる」と豪語した政治家がいたが、個人の努力にも限界がある。親から土地や家を相続した人や早い時期にそれらを手に入れた人たちは、うさぎ小屋とは無縁だが、そうでない人たちは家をもつ夢さえ抱かなくなっている。そして、土地や住宅をもてる人と、もたざる人との格差がどんどん拡大しているのだ。

ごく平均的なサラリーマンは、大都市圏郊外の二十坪前後の集合住宅から、満員電車で揺られて通勤している。手取り収入のなかから住宅ローンを払い、子ども二人の学資を納め、老後に備えて多少なりとも貯蓄と保険料を支払えば、手もとにはいくらか残らなくなる。諸外国に比べて物価は高く、教育費もばかにはならない。だから、収入はあっても豊かさの実感などまるでないのだ。

欧米人にいわせると、東京都心のオフィス街は整備されて美しいが、一步、既成市街地に入ると、これが經濟大国かと不審に思われるほど低層小住宅、つまりうさぎ小屋が密集しているのに驚かされるという。一人当たりの公園面積も欧米とは比較にならないほど貧しいし、下水道普及率、街の景観、いずれをとっても立ち遅れている。狭い国土に一億何千万人も住んでいるから、当然といえば当然ではあるが、やはり、国の住宅政策、土地政策の失敗がうさぎ小屋の元凶であり、住宅問題と社会資本の整備こそ、二十一世紀への日本の課題であろう。